

各日共通

注意事項

- ・多摩織、江戸表具の体験は年齢制限がありますので、ご注意ください。
- ・各体験ともご予約不要ですが、材料がなくなり次第終了とさせていただきます。
- ・体験によっては衣服が汚れる場合がございます。エプロン等を御持参ください。

- ・混雑時お並びいただく場合がございます。
- ・中学生以下の方は保護者の方とご参加ください。

〈会 期〉平成30年 8/3(金)・4(土)・5(日) ※各日二部制(完全入替)

〈内 容〉①落語 高座一席、②歌舞伎座舞台裏話、
③職人による実演&トークインタビュー、
④伝統工芸品特別展示販売



TOKYO
Teshigoto



お問い合わせ先：公益財団法人 東京都中小企業振興公社 城東支社内
〒125-0062 東京都葛飾区青戸 7-2-5
TEL：03-5680-4631 FAX：03-5680-0710

先生は伝統工芸士！

伝統工芸士とたいけんフェス

工芸の宝庫江戸・東京

後援：東京都教育委員会
台東区教育委員会
荒川区教育委員会

江戸 東京

現代に活きる伝統工芸士展

東京無地染

手拭い絞り染

東京仙壇

組子コースター

東京七宝

七宝焼き
熱さと輝きを
感じて!!

唐木箸、ペンダントの製作
三味線演奏体験

東京三味線

20歳
40歳
初い路か

東京彫金

彫金ストラップ・キーホルダー
(名入れ)

江戸指物

江戸切子

切子体験

注染手拭い染め体験

東京本染ゆかた・てぬぐい

多摩織

手織りコースター

東京くみひも

ゆびくみひも
ミサンガ作り

東京手描友禅

手描ハンカチ
エコバック
缶バッジの友禅加工

東京銀器

銀製しおり・バングルプレスレット

刺繍のブローチを
作ってみよう!

江戸刺繍

江戸手描提灯

ミニ提灯
文字描き入れ

江戸更紗

エコバック
更紗染め体験

東京染小紋

金彩ランチョンマット

やってみよう
つまみ体験

江戸つまみ簪

江戸木目込人形

木目込絵馬を作ろう

からくり屏風(2種類)、
ミニ屏風

江戸表具

出展者全員が「伝統工芸士」。
いろいろ作ろう。たくさん話そう。

希望者全員
プレゼント!

自由研究
おたすけ
シート

写真はワークショップの完成品(予定)です

イベント特設サイト

<http://taikenfes2018.peatix.com>

入場パスはこちら!

保護者の
皆様へ

🔍 たいけんフェス

予定枚数に達した時点で、期間内であっても発行は終了します。入場パスをお持ちでない場合、入場にお時間をいただく場合があります。その他詳細については、サイトをご確認ください。

産業貿易センター台東館7Fにて

2018 7.28 土 ~ 29 日

主催：公益財団法人 東京都中小企業振興公社 / 東京都伝統工芸士会

言問通り

二天門

浅草寺

馬道通り

仲見世通り

雷門通り

産業貿易センター
●台東館

浅草小学校

浅草駅

浅草橋

言問橋

隅田川

江戸通り

浅草駅7番出口より
徒歩7分

まつりだ
まつりだ

工芸の宝庫江戸・東京

東京都の
伝統工芸品

全
41
品目

つくろう!はなそう!

東京は江戸から続く工芸の宝庫です。品目はなんと合計41品目!普段はなかなか会えない「伝統工芸士」がこの日は台東館に大集合!この機会にホンモノに触れてください。

東京染小紋

江戸時代に武士から町人まで広がりました。大変細かい柄が特徴です。

金彩ランチョンマット
金糊を使ってテーブルランチョンマットを作ります。



青木 啓作 先生 五月女 利光 先生

東京無地染

「江戸紫に京鹿の子」と言われ、紫染は江戸産が最上とされ、町人に広く愛されました。

手拭い絞り染
道具類を使用して絞り、染めた後ほどきます。



近藤 良治 先生 西島 正樹 先生

東京本染ゆかた・てぬぐい

憩いの場である銭湯で、「粋」を尊ぶ江戸っ子の湯上り用の衣服として発展していきました。

注染手拭い染め体験
世界でも類を見ない染色技法の「注染」で手拭いを染めていきます。



村井 光寿 先生

東京仏壇

江戸期からの伝統技法により、黒檀・紫檀など堅い木から作り出す簡素で品位のある仏壇です。

組子コースター
唐木材を組んですてきなコースターに仕上げます。



岩田 芳樹 先生



村山大島紬 わらやまおしまつむぎ
村山大島紬の特徴は、板締め染色という染色方法で民芸の地風を持っています。



江戸簾 えどすだれ
江戸簾の特色は、竹、萩、御業、蒲、よしなどの天然素材の味わいをそのまま活かして作られます。



江戸漆器 えどしっき
私たちの暮らしの中で、古くから使われ続けてきた漆器。漆塗りのお椀や重箱などが代表です。



江戸鼈甲 えどべっこう
ウミガメ(タイマイ)の甲羅で和装品や装飾品を作製します。深い光沢があります。



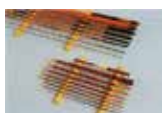
本場黄八丈 ほんばきはちじょう
八丈島の草木による天然染料からうまれた「黄・樺・黒」の三色を主体とする「染め」と「織り」が特徴。



東京額縁 とうきょうがくぶち
古来の額縁の原型は、神社仏閣に名を彫り込んだ扁額と言われています。



江戸刷毛 えどはけ
馬、鹿、山羊などの獣毛やシュロなどの植物繊維を使って作られます。



江戸和竿 えどわざお
何本かの異なる竹(布袋竹、矢竹、淡竹、真竹)を継ぎ合わせ、一本にした「継竿」の釣竿です。



江戸衣裳着人形 えどいしょうぎにんぎょう
わらなどの胴体に顔や手足を付け、衣裳を着せつけるもので、百以上の工程を、丹念に仕上げていきます。

右も左も伝統工芸士

今回出展の工芸品

20

品目

出展者以外の 東京都の工芸品

21

品目

東京彫金



タガネひとつで丹念に様々な模様を彫り、独特な着色方法で仕上げられます。

彫金ストラップ・キーホルダー(名入れ)
金づちとタガネを使って、ネーム(名前)などを点で打刻します。



中島 一華 先生

江戸切子



江戸切子は、日本橋大伝馬町の加賀屋久兵衛が、ガラス表面に彫刻をしたのが始まりとされます。

切子体験

小皿に簡単なカット加工をします。



林 克美 先生 門脇 建男 先生

東京三味線



江戸時代に歌舞伎の長唄・義太夫などの邦楽の流行とともに三味線も発展しました。

唐木箸、ペンダントの製作
三味線演奏体験
三味線の材料(黒檀・紫檀など)を磨いてつやを出し作品を作ります。



伊東 孝夫 先生 高橋 定裕 先生 向山 正成 先生

東京七宝



東京七宝の祖である平田彦四朗は幕府お抱えの七宝師として名作を残し、その技は門外不出でした。

七宝焼き・熱さと輝きを感じて!!
七宝釉薬を銀箔の上に盛り、色鮮やかなガラスの粒を乗せ焼成します。



坂森 登 先生 畠山 弘 先生

江戸木目込人形



木目込人形は桐壁で原型を作り、布地を木目込で衣裳を着せたように作る人形です。

木目込絵馬を作ろう
可愛いうさぎを木目込処理して板に貼ります。



柿沼 正志 先生

江戸手描提灯



特徴のある提灯文字は「江戸文字」と言われ、神社仏閣に貼る千社札は提灯屋が描いていました。

ミニ提灯文字描き入れ
ミニ提灯に文字を描き入れます。



村田 修一 先生

江戸象牙



発祥は古代エジプト。奈良時代に中国から日本に伝来。象牙から細密で美しい工芸品を彫り出します。

アクセサリー製作実演
手を切ることがあるので体験は出来ません。実演のみになります。



片山 紀史夫 先生

江戸表具



書画が町人に身近となり、掛け軸などの需要が増え江戸表具は発展しました。

からくり屏風(2種類)、ミニ屏風
組立寸法カット加工した色々な紙を貼り合わせて手作り仕上げます。



我妻 雅之 先生 石井 弘芳 先生 櫻井 潔 先生 清水 達也 先生
春原 敏雄 先生 田中 武久 先生 田中 正武 先生 古牧 平市 先生

東京銀器



銀(しろがね)師と呼ばれた銀器職人や飾り職人の技術を受け継ぎ、現在に至ったものが東京銀器です。

銀製しおり・バングルブレスレット
金づちを使って文様や刻印の打込み、成形をします。その後、磨き上げて仕上げます。



泉 健一郎 先生 福士 豊二 先生

江戸指物



木の美しさを活かし、釘を使わずに、見えない所にも技を施し、極めて堅牢に作られます。

桧八角箸作り
四角く作られた桧の箸を八角に仕上げます。



佐藤 進 先生 渡邊 彰 先生 渡辺 光 先生

江戸押絵羽子板

綿を布でくるんで、立体的でさまざまな絵柄に仕上げたものが「押絵羽子板」です。



江戸木彫刻

仏教とともに伝来し、現在は寺院の装飾や欄間などに見られます。木から命を彫り出します。



江戸からかみ

襖や屏風などに使われる加飾紙です。木版摺りや型紙による捺染、刷毛引き等多くの技法で作られます。



江戸筆

筆の穂先には山羊毛・馬毛・豚毛・たぬき毛・いたち毛・猫毛などが使われます。



東京琴

室町時代末期に始まり、数々の改良を重ねて東京琴に至りました。桐、紅木、紫檀などが使われます。



東京洋傘

1854年、ペリーが日米和親条約締結で浦賀に来航した際、上陸した乗組員が持っていた傘が注目を浴びました。



江戸甲冑

身を守るための鎧兜を飾る習わしの中に、わが子が健全に育つよう祈りが込められています。



江戸木版画

絵師が原画を和紙に墨一色で描き、彫師が原画を貼った板に小刀で彫り、摺りがばれんでこそ仕上げます。



東京手植ブラシ

引き線と呼ばれるステンレス線により、連続して植毛されているため、機械植えに比べてとても丈夫です。



東京打刃物

武士階級の台頭によって生まれた刀鍛冶の技術が源流となっています。



東京籐工芸

籐は引っ張る力に対して非常に強くしなやかなので、竹にはない「巻く」「結ぶ」加工などができます。



江戸硝子

18世紀始めに日本橋で眼鏡や鏡、浅草で風鈴など、江戸硝子製造が始まりました。

